

悪しき流れを断ち切るために

建築界の浄化を願って

高橋 偉 之

先日の新聞に、町会議員をやったことのある、ある作家がこんなことを書いていました。

——わたしが町会議員をやめた二〇年前には、土建業者の町会議員は一人か二人だったのが、統一地方選挙のたびに増えて、一時は定員が三〇名中一〇名にも達した。町予算総額は二億ちょっとが六〇億以上になっている——

——この二〇年間、町費だけでなく県費・国費を含めて、この町で支出された事業費の大半は土木業者に支払われたのではなからうか——

——県土木地方出張所長が県庁の課長にもどるときには、土建業者が一〇万から五〇万の餞別を包むのが慣例……、いつか県土木課の係長夫人がなくなるときには、

ないといわねばなりません。建設業界からの多額の政治資金についても今さら驚くことでもなくなっています。

新建は、今までも、このように建設業界の腐敗・汚職につながるような体質の改善については、たびたびふれてきました。

ところが、最近の新聞には、建設業者の贈賄と同時に「設計監理を行なった設計事務所長は市長に一〇〇万円贈賄」とありました。

本誌八月号「公共施設の設計者選定の方法を探る」座談会で、林さんが「役所に行ったとき一番いやな思いをするのは『業者』扱いされることです」といっておられるのを読んだ新建会員である住都公団職員が、「設計事務所は『業者』ではないんですか」と皮肉をいったとか、伝え聞きましたが、贈賄する仲間を見たら「私たちは『業者』ではない」と胸をはって言えず、下を向いてしまっています。

先日、地方のある大手建設会社の現場員に聞いた話ですが、隣県の京都の駅前再開発の大きなビルを、設計事務所からの依頼で実施図面をかいた。当然わが社の仕事と思ってい

たところ「天の声」で別の業者にはいられて、J・Vにはなったが二番手にされてしまった。と嘆いていました。彼にとっては、設計事務所の手伝いをするのは当然で、「天の声」が不満だったのです。私の事務所でも、設計中の仕事を受注させてほしいと営業にくる建設関係者さんは、ほとんど例外なく「図面のお手伝いが必要なら何でもします」とおっしゃるから、今や業者に図面をひかせるのは、むしろ常識的行為なのでしょうか。

しかし、ある設備設計者から聞いた話は、ちょっと度はずれです。某設計事務所は、建築主から依頼された仕事について、大手建設業数社に対して疑似コンペを行ない（書類で建築主から出された設計与条件を整理して提示し、アイデアともども設計案を出させたそうです）、そのなかから一社を選んで、社員を出させて図面をひかせている、というのです。すさまじい話です。その設備設計者には、業者からその設計依頼がきたのだそうです。

設計者に聞いても、これらの実態はなかなか明るみに出ません。しかし建設業者にいわせると、業者に図

面をかかせる、バックマーシンをとる、などはごく一般的な現象だという事です。

設計料がダンピングの結果は、こうでもしなければ食っていけない、ということなのでしょうか。そして一方で、技術研鑽の余裕もとれず、本誌八月号「ひと言」欄で埜瀬氏がなげくような設計者がたくさん生まれているのでしょうか。

良心的な建築家・設計者は自由な職能の確立を主張していませんし、私たち「新建」も、真に使う人・住まう人の立場にたつて良い建築物をつくっていく上で、職能の確立は大きな課題であると考え、多面的に問題を取り上げています。

しかし全体として見ると、今描き出したような状態の方が、むしろ建築界の一般的状況であるらしいのです。

第十二回大会では、当面の運動の課題のひとつとして「建築界の浄化を主体的にすすめる」という視点をもっと明確にしなければならぬ段階にきています」と述べ、

——設計料をダンピングし、業者に図面をかかせ、バックリベートをとるといふ背信行為や、ユーザ

ーやオーナーの暮しと経営を苦しめる欠陥建築を具体的に告発し、悪しき流れの根をたつ——

——そのためには会員はより身を正し、豊かな人格に裏打ちされた総合的な高い力量をもち、大義をもって多数の建築家・技術者を組織し、ユーザー・オーナーの運動と連動することによって悪しき傾向に社会的裁断を下すという方針を具体的に検討する必要があるます——

といっています。

しかし、ぎりぎりまで仕事量が減り、しかも過当競争のなかで生き抜いていきながら、(新建の理念にもとづいた努力をし、仕事の枠を拡げる努力をし、建築主には職能について理解を深めてもらいながら設計料を確保するという努力をしながらも)一般的なこのような風潮に反して「日常的に悪しき流れを断ち切る」努力をすることは容易なことではありません。そのなかで「新建」として、これについて具体的な方針を出すというのは、なおさらむづかしい課題です。

今の段階では、各人が日常業務のなかで自覚的努力を続け、事態を少しでも改善させることしかないのでは

しょうか。

東京支部では、せめて「設計料ダンピングはできるだけやらない」「バックマーシンはとらない」という申し合わせを支部総会でしています。

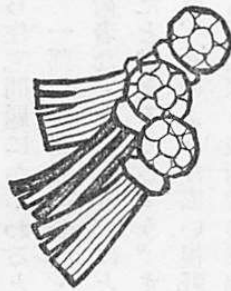
私は、みずから恥部をあげてみせることによって(このような実態を一般の国民の前に明らかにすることによって)、少しでも建築界全体

へみちのく

メモ

仙台七夕

まつり



仙台七夕まつりは、毎年八月六、七、八日の三日間、市をあげて行なわれ、東北三大夏まつりのひとつとして年ごとに豪華さを増している。

七夕まつりの飾りは、早朝にハスの葉にたまった露を硯に受けて墨をすり、たんざくに願い事を書き、書道上達を祈願する。また紙衣は病氣災害除けと裁縫上達、くずかごは質素儉約、投網は豊漁、きんちゃくは富と繁栄、千羽鶴は家内安全を願うもので、それに吹き流しをつけて美しさを演出する。

の自浄作用の役に立たないかと考えて(もちろんこれ一回では何にもならないでしょう。今後いろんな人が、何度でも、具体例をみんなの前に明らかにしていくことによつて、少しは浄化の効果が上っていくのではないかと考えて)、先ずはこんな文章を書いてみました。

(新建常任幹事)

星まつりとして七〇〇年の伝統をもつと云われ、本来は人びとの暮しに密着した行事のひとつであった。

地酒

仙台で飲む日本酒といえば、不思議なこと秋田産の有名銘柄が多い。しかしササニシキの米どころであり、水もまた清らかな仙台に地酒がないわけではない。

仙台では天賞、勝山、鳳山、松山町の一の蔵、塩釜の浦霞などが出まわっている銘柄であろう。勿論、その他の市町村の地酒の数を含めると相当数あるが、地元の家庭用で消費されてしまうために、飲食店まで出まわらないのが多いが、それでも気らくなおでん屋などで味わえるかも知れない。